

講演「3月金融危機と内外の諸問題」

シタツク藤原事務々所長 藤原 直哉氏 (03-3)

3月1日午前7時、航空管制システムが突然作動しなくなりました。一瞬頭を掠めたのは藤原さんが謂う「北朝鮮によるサバ・・円?」。とにかくこの3月は「金融危機」「イタ攻撃」「北朝鮮危機」など「怖い話」がいっぱいです。

- * 日銀総裁に福井氏が内定した。「何もしない」という点で私は最悪のサバだと思う。福井氏は98年、サバで副総裁を辞任、「もう二度と戻らない」と言明して日銀を去った人。先日、元日銀幹部の石井某が「福井を総裁にしてはならない」という手紙を国会議員に出したことがサバに載った。問題が噴出するのではないか。
- * 私は積極性のある中原伸之氏が良いと思っていた。小泉首相も最後まで固執していた方がある。彼が主張する「イタ論」は一見乱暴のように見えるが、最後に残された金融政策だと思ふ。潰すべきところは潰し、生かすべきところは政府が損失を被ることを覚悟で、どんどん無担保融資をやって残す。このサバが今、重要なのだ。
- * 副総裁に前財務省事務次官が就任した。これで日銀は完全に財務省の支配下に入った。今、財務省や日銀は「金融危機はない」という認識に立っている。例えば、朝日生命。とっくの昔に資金ショートを来たしているのに破綻しない。日銀がサバを出し続けているからだ。この点、政府のやり方はずるい。損失を財政で補填することを一切認めない。
- * 日銀は53兆円の国債を持っている。その7割が10年満期の国債だ。金利が1%上がると値段は10ポイント下がる。金利が暴騰すると持っている国債は大損、機能が停止する。日銀が損失を出すと今の法律では財政から補填するしかない。従って、日銀は完全にサバを刷る機関に陥ってしまう。今や日本の「経済」「財政」は崩壊寸前なのだ!
- * 今、各銀行が増資をやっている。民間からの増資で賄えるような、そんな甘い状況ではない。例えば、1兆円増資の「みずほ」。取引先から集めるわけだが、かなりの額を引き受けるといわれる第一生命、劣後債を普通株に切り換えるだけで、現サバを入れるわけではない。その増資した株は5年間据え置きなので「担保価値」は実質ゼロ。
- * 増資がサバだと分かれば潔く国有化すべきなのだ。これなら株主責任は免れる。ところがサバして増資し、あとで「飛ばし」「サバ」「債務超過」が露見した場合、取り付け騒ぎが起り、株価はゼロになる。山一証券も土壇場でサバや政治家が絡んだ6千億円の「飛ばし」が発覚し破綻したのだ。銀行に「飛ばし」は全くないとはいえない。
- * 仮に銀行の株価がゼロになった時、膨大な銀行株を持っている生保はどうなるか? 全部債務超過になるのではないか。その生保に日本の個人貯蓄の30%が行っている。大サバは避けられまい。結局、銀行を国有化して、「無担保融資(営業利益が黒字の会社に)」を、どんどんやるしかない。こうなればサバが回り始め、ドルも解消される。
- * この2年間に世界の株式時価総額が1500兆円も消えた。膨大なサバタイプを考慮に入れると、まさに歴史が始まって以来のサバ崩壊で、世界の投資家は大損。従って、サバがものすごい勢いで流出している米国は、71年のサバ以来の危機に見舞われている。このまま行けばドルは大暴落の怖れがあり、海外送金を止めるかもしれない。
- * そんな中でのイタ攻撃は、双子の赤字を拡大させ経済の足をさらに引っ張る。ドル売りに拍車がかかり、100円を割るのではないか。その「ショック」が起きるのは3月中だと思ふ。現に米国・東京サバの縮小が続き、繁盛していたサバが失業している。日銀はドル買い介入に踏み切るだろう。どんどんサバを刷るわけだから、イタ要因になる。
- * 北朝鮮は兵器を10年前からサバ武器商人を通じて中東に売っている。北朝鮮と欧州のつながりは深い。小泉訪朝も英国、サバが関わったことは明白だ。北朝鮮で一番怖いのは「サバ・・円」だと思ふ。この技術は米国に次ぐもの。サバに積んだ装置に強力な稲妻を発生させると、電力、輸送、通信のシステムが原因不明で作動しなくなる!
- * 日本はイタにならざるを得ないと思ふ。ドル時代は現金を抱えてじっとしておればよかった。イタ時代はどうするか。「値上げできる実力がわが社にあるかどうか」が勝負になる。即ち、商品やサバの品質がお客から高く評価されなければならない。つまりお客の役に立つかどうかなのだ。そんな経営者に投資するのもイタ時代の要諦だ。
- * 過去、大きな会社は大量に造り、安く売ってきた。そのなかで魂が抜けてしまっているのを強く感じる。これからの強い会社は「大きい」ことを意味しない。5年~10年先、日本は変わる。そこまでちゃんと経営を続けることができるかどうかだと思ふ。自分の本業に特化し、お客を大事にするという原点に立ち帰ることが何よりも大切だ。
- * ともあれ、たいへんな時代を迎えた。過去、日本にはこのような状況が2回あった。明治維新と敗戦だ。この時、国家財政をご破算にして生き残った。が、今の日本には大きな決断が出来るリーダーがいらない。国も企業もトップには強力なリーダーシップが不可欠だ。経営者自身がそのように変わらないと企業の存続はおぼつかない。頑張ってください。(今回のみ特別バージョンでお届けします)